

共生のきずなを求めて!

NPO 現代座

2019 年 11 月 1 日 発行
(通巻 483 号)

現代座レポート No. 80

- ・ 第 3 回「川崎平右衛門研究会」 (1)
- ・ 感謝状を頂き取り組みを振り返って (2-3)
- ・ 「川崎平右衛門研究会」前夜祭で 協同の心を呼び戻せ (4)
- ・ 長野市で上映会「出航」は現代のテーマだ (5)
- ・ 会館日誌 (5)
- ・ 心をつなぐ バラエティ劇場 第 3 弾 (6)
- ・ 会館日誌 会員入会、継続、寄付 (6)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 NPO 現代座 発行責任者：木村快

〒184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165 (代) FAX042-381-6987

第 3 回 『川崎平右衛門研究会』

10月17日(木) 18日(金)に小金井市の宮地楽器ホールで第3回「川崎平右衛門研究会」が行われました。

「川崎平右衛門研究会」は2014年の現代座公演「武蔵野の歌が聞こえる」を観て川崎平右衛門の事績を知った木谷道宣さんが「もつと多くの人に平右衛門を知らせた」と色々な方に呼びかけて準備をすすめました。

第1回は2017年、府中市で行われた川崎平右衛門没後250年記念の「武蔵野の歌が聞こえる」公演の時に結成されました。

第2回は2018年秋、東京永田町の参議院議員会館会議室で開かれ、そして今年、第3回が小金井市の宮地楽器ホールで開かれました。

◆10月17日・前夜祭

前夜祭は協同をテーマにした映画、「ワーカーズ 被災地に起つ」(厚生労働省推薦映画)が上映され、そのあとパネルディスカッション「災害復興と協同労働・そして助け合い」が行われました。パネリストは川崎平右衛門研究会会長で東京学芸大学特任教授の大石学先生と日本社会連帯機構代表理事の永戸祐三さん、そしてNPO現代座の木村快です。進行は研究会事務局長の蔦谷栄一さんが務めました。

◆10月18日・第3回平右衛門研究会

午前中は府中市がつくった映画『代官川崎平右衛門』に始まり、一橋大学教授渡辺尚志先生の特別講演「百姓たちの江戸時代」が行われました。

午後は「川崎平右衛門顕彰会・研究会」の総会が開かれ、西岡真一郎小金井市長の祝辞をいただきました。続いてNPO現代座の木村快に感謝状が贈られ、木村より『武蔵野の歌が

聞こえる』の制作経過の報告が行われました。(内容は2ページに掲載)

◆大石学研究会会長の講演は「多摩13市町における川崎平右衛門の新田開発と今」でした。

◆パネルディスカッション

「多摩地域の活性化と協同」ディスカッションが行われました。パネリストは小金井市の物語屋・中川哲雄さん「小金井市での町づくり」。日野市まちの生ごみ活かし隊代表・佐藤美千代さん「日野市での地域循環づくり」。JA東京むさし小金井地区青壮年部長・大久保勝盛さん「多摩地域の農業振興」。ワーカーズコープ理事・成田誠さん「多摩地域の協同活動」。

コーディネーターは平右衛門研究会事務局の蔦谷栄一さんでした。

来年の第4回研究会は川崎平右衛門にゆかりの深い岐阜県瑞穂市で開催予定です。



川崎平右衛門研究会会長
東京学芸大学特任教授
大石学氏



顕彰会研究会副理事長
日本社会連帯機構代表理事
永戸祐三氏



特別講演
「百姓たちの江戸時代」
一橋大学教授・渡辺尚志氏



『武蔵野の歌が聞こえる』
制作経過の報告
NPO現代座・木村快

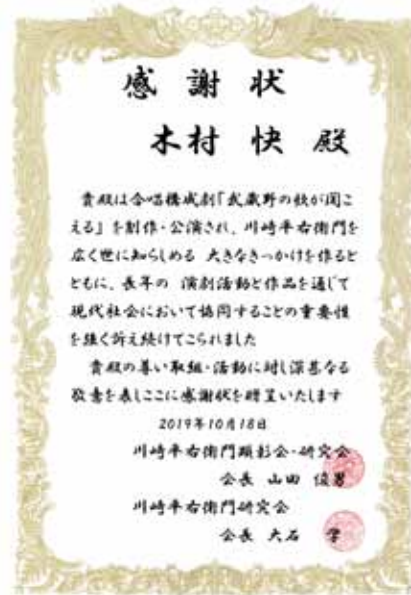


コーディネーター
川崎平右衛門研究会
事務局長 蔦谷栄一氏

感謝状を頂き

取り組みを振り返って

木村 快



【感謝状 木村 快殿】

貴殿は合唱構成劇「武蔵野の歌が聞こえる」を制作・公演され川崎平右衛門を広く世に知らしめる大きなきっかけを作るとともに、長年の演劇活動と作品を通じて現代社会において協同することの重要性を強く訴え続けてこられました

貴殿の尊い取組・活動に対し深甚なる敬意を表しここに感謝状を贈呈いたします

2019年10月18日

川崎平右衛門顕彰会 会長 山田俊男
川崎平右衛門研究会 会長 大石 学

感謝状を頂き、ありがとうございます。

これは2010年に結成された「川崎平右衛門プロジェクト」及びNPO現代座による協同作業でありまして、お礼の挨拶に代えて、代表として平右衛門プロジェクトの取り組みをごく簡単にお話しします。

◆この起こり

2010年に地元の人に頼まれて、「小金井小次郎」という幕末の人物の話を語り物で上演したとき、地元「NPOシニアSOHO」の大橋元明さんから、小金井市は江戸期の武蔵野新田の中心だが、町の歴史を辿る話として芝居にできないだろうかと言われました。

2010年5月、大橋さんの提唱で地元の皆さんによる小金井市川崎平右衛門プロジェクトが結成されました。みんなで出来るだけ資料を集め、古文書解読の専門家でも摩史に詳しい元國學院大学客員教授木野主計先生をお招きして、江戸史の勉強会を始めました。

芝居の台本は何よりも登場人物の人間像が明確にならなければつくることができません。

しかし残念ながら、平右衛門に関する資料は明和の大火(1772年)で川崎家が焼失したこともあって、業績に関する記録はあっても、平右衛門個人の人物像がわからない資料がありません。このため研究者の間でも様々な平右衛門像があるようです。これはとても個人レベルの出世物語や偉人伝として書くわけにはいかないと思いました。

わたし達には可能な方法は、平右衛門に関する小さな事実を示す資料を拾い集め、時代背景と照らし合わせながら、人間の営みを探っていくことでした。

◆震災復興期を生きた人物

平右衛門は元禄4年(1694)に生まれ、明和4年(1767)に没しています。彼の生きた時代は日本史上最大の災害多発期で元禄大地震、宝永大地震、富士山大噴火、そして浅間山の連続噴火と災害が相次いだ時代です。ちょうど勉強会を続けていた2011年3月、東日本大震災が起こりました。これは震災復興の話として書く必要があると話し合いました。

◆平右衛門の育った村

平右衛門の生地多摩郡押立村は、江戸期には暴れ川として知られる多摩川の治水対策拠点となる村でした。



元禄16年、元禄大地震、死者22万人以上
宝永4年10月、東海地震、紀伊半島沖震源の南海地震同時に
宝永4年11月、16日間にわたり富士山大噴火
宝永5年～8年 連続して浅間山噴火、広範囲に降灰。農業に大きなダメージを与える。

緊急の災害に対しては村総出の協同能力が必要であり、伝統的に協同の仕組みを持っていたはずですが。

平右衛門は村役人の跡継ぎとして生まれ、10歳の時、元禄大地震を経験し、大人の仲間となった14歳の時には宝永の大地震と富士大噴火を経験しています。この時府中宿では大量に降り積もった火山灰で農作業が困難になり、畑の表土を削り、大國魂(おおくにたま)神社界隈に埋めた抗区の跡が30力以上発見されています。村役人は幕府行政の末端を担う職業であると同時に村で暮らす農民のリーダーでもあります。彼は若者のひとりとして汗を流したはずですが。

◆徳川吉宗の登場と大岡忠相の活躍

宝永大震災後十年たっても、幕府は復興に手をつけることができませんでした。八代将軍となった徳川吉宗は紀州藩主として震災復興をやり遂げた経験から、元禄大地震で震災仮奉行を勤めた旗本の大岡忠相を南

町奉行に抜擢し、復興改革に乗り出します。

大岡は国土管理を担当する幕府勘定方とは別に、農地開発のための地方御用を命じられ、民間の人材を独自のグループに組織します。その人選の過程でも、平右衛門は早くから目をつけられていたようです。

平右衛門は数学的知識を必要とする水門建設の技術者でもありました。大自然の中の水のあり方を考えることによって、独自の農業思想を形成したようです。水害対策のための竹林を造成したり、被害を受けたときのために米穀だけに頼らない方法を模索しています。

◆協同なくして開拓は不可能

平右衛門についての代表的資料とされる府中の森博物館の『代官川崎平右衛門』では「代官所主導の下に積極的に資金運用する平右衛門の方法には、象洞（そらぼら・象の糞）販売で見せた商人的利殖の才と、「貯める」ことで豊かになろうとする農民的発想とが、村役人として培ったリーダーシップで生かされたといえます。」と締めくくっています。

幕府の役人が十年もかけて成功しなかったのは、開拓農民が定着せず、安定したコミュニティが成立しなかったからですが、農民の豊かさ志向を満たしたから成功した……が気になり、1年近く議論を続けました。

わたしは大正時代にブラジルへ送り出された移民たちがサンパウロ州の原生林開拓に挑んだ歴史を調査したことがあります。金になることを宣伝する移民会社の企画は開拓民の移動が激しく、逆に辺境奥地の開拓でも大人も子どもも老人も一体となった開拓地は、貧しくとも喜びのある共同体をつくりだしています。開拓はどのような村を作るかが問われる仕事です。そこはリードする指導者の理念が問われるところではあります。

わたしは直感的に新田開発は協同による成功ではないかと考え、その視点で集めた資料を再検討してみました。すると、資料の背後に見える世界が全く違って見えてきました。平右衛門は農民の協同を引き出そつ

とするために、常に農民の側に立っていたのです。

◆研究者からの批判と激励

4年近い歳月をかけて、やっと上演台本ができました。2014年度の上演は大成功でした。しかし、予想した通り、舞台を観た「平右衛門」研究グループの研究者から公開の席上で、「協同」への批判が展開されました。「これは代官所の仕事であって協同ではない。協同などと言っ言葉を使うと、観客に江戸時代から協同組合があったと誤解を与えるから書き直すべきだ」

わたし達の間では反論すべきだとの声も上がりましたが、「この取り組みの目的は、これまで無縁だと思っていた江戸の歴史が、現在の自分たちとどのようにつながっているのかを考え始めることだから、研究者が納得しなくてもいい」と黙って受けとめました。これとは逆に独自の視点からの平右衛門研究家、野

田政和氏からは「現代劇としての平右衛門解釈に感激しました」と激励が寄せられ、以後、多くのことを教えて頂きました。

◆合唱構成劇『武蔵野の歌が聞こえる』
タイトルは武蔵野新田82力村の農民の協同の歌として『武蔵野の歌が聞こえる』になりました。

現代に繋がる歴史の話になるよう、生活者の自然な合唱7曲でつなぐ構成劇として組み立てました。自然な合唱は劇場に協同の心を響かせると考えたからです。そこで国立総合児童センターで音楽を担当していた民族音楽の専門家・福沢達郎さんに加わって頂き、合唱など経験のないメンバーが納得するまで、何度も書き直して貰いました。福沢さんにはほんとにご苦勞をかきました。感謝しています。

取り組みを振り返ってみると、こうした仕事はとても個人の能力で出来ることではありません。街おこしプロジェクトの集団作業と、無償ボランティアで参加してくださった俳優やスタッフの協同の成果です。この荣誉は平右衛門プロジェクト協同作業者の一人としてお受けしたいと思えます。

ありがとうございます。

- ◆「武蔵野の歌が聞こえる」公演回数
- 2010年 小金井市立第三小学校
- 50周年記念「武蔵野台地の夜明け」
- 2014年 9回 現代座ホール
- 2015年 8回 現代座ホール
- 2016年 8回 現代座ホール
- 2017年 3回 府中の森芸術劇場

- ・ふるさとホール

2017年 2回 学芸大学保育児童による上演「へーえもん物語」



2010年5月から現代座会館2階の視聴覚室は「小金井陣屋」と呼ばれ、プロジェクトメンバーの集會室になりました。勉強会を始め台本作りはここで行われました。



【木野主計先生】3カ年にわたって古文書の解説を軸に江戸史の講義を受けました。



2014年5月、支援サポーターズが結成され、上演がはじまりました。

「川崎平右衛門研究会」前夜祭で
協同の心呼び戻せ 木村 快



平右衛門研究会前夜祭で、協同の心を受け継ぐ人々の姿を伝える『ワーカーズ被災地に起つ』が上映されてとても嬉しいです。この映画は何度も観ているのですが、そのたびに、今はワーカーズがあつて良かったなあと思つています。1995年の阪神淡路大震災のとき、わたしは1年間かけて神戸の医療従事者の姿を見つめる連載記事を書いたことがありますが、その時、わたしは医療従事者たちと一緒に、取り残された高齢者たちが悪戦苦闘する姿を見ていたからです。

◆①人類史として見直す時代ではないか

しゃべるのは余り巧くないので、映画を見ながら考えた5つの要点を、メモを読みながらお話しします。

ぼくは協同の専門家ではありませんが、60年間、仕事で全国の地域を歩きました。そして地域が崩壊していく状態も見てきました。東日本大震災のあとも沿岸部を歩いてみていろいろ考えさせられました。

今や世界中の権力者たちが自然環境を破壊しながら、金力、権力、武力を振り回して混乱に向かって暴走しています。先日、の国連地球行動サミットでもアメリカや日本は参加も発言もしませんでした。

今回の台風災害の状況を見ても、社会基盤の崩壊は時間の問題のように思えます。ここまで来たら、もう暮らしのあり方は「2025年には…」とか、「今世紀末には…」といった脅し文句ではなく、人類史として見つめ直す必要があると思います。(ちよっと大げさかな)

◆②協同本能は眠っている

人類は20万年前には霊長類の中でも滅びるかもしれない大変小さな弱小グループでした。それが協同することで辛うじて生き延びて現在に至っています。人類が貧富の格差や権力に翻弄されて「協同」を忘れるようになったのは1万年前と言われていますからほんの最近のことです。

それまでは他の霊長類のように1人1人で生きていく力はないので、肉食獣の危険を避けて、隠れ家に群れて住み、「協食、協同保育、協同労働」で生きていました。狩猟採集時代は自然の中で、そんな生活を20万年も続けていたのです。だから少々の混乱で意識から消えていても、人類の身体には蓄積された協同能力が眠っているんじゃないかと、かすかな希望を持っています。(かすかです・笑い)

◆③顔の見える群れをつくれ

これからのわたしたちの課題は、能力のあるなしに関係なく、まず群れをつくる努力が必要だと思います。われらの先祖ホモ・サピエンスがそうでしたが、協同の本能は群れで追い込まれたときに目を覚ますものです。今はチャンスかも知れません。

たとえ少数でも自立を目指す仲間がいれば、新しい生き方が生まれます。一緒にやりたい人がいれば能力のあるなしにかかわらず、お互いの顔を見合せて語り合うことができます。顔が見えるとお互いの心が見えます。この「顔が見える」ということが大原則です。一緒に試行錯誤することで協同の足もとが固まり、自立した経験を積むことができます。

◆④先入観を持たない素人の眼こそ大切だ

映画を見て特に心惹かれたのは、やがて消えていく林業の仕事に参加するグループの話でした。自然と向かい合った仕事だけに、自然と人間の関係を考えさせられます。

素人は当面の力にはなりませんが、協同を目指す素

人が山と立ち向かったとき、地元民グループには見えなかったさまざまな可能性が見えてきます。

大きく環境が変化する時代は、先入観を持たない素人の眼が新しい可能性を見つけ出すのだと思います。

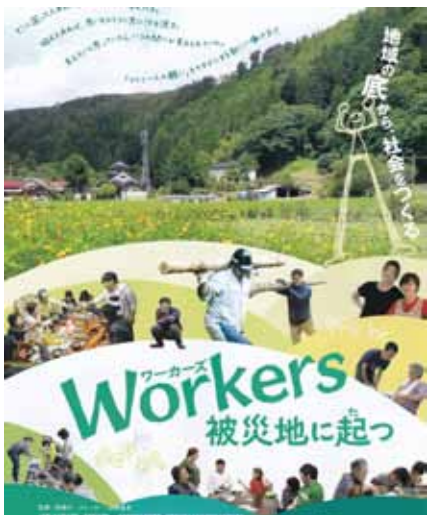
◆⑤協同の心呼び戻せ

こうやって人が集まって一緒に感じあう場を「劇場」と言います。劇場は建物のことではありません。

わたしの職業的経験から言うと、お祭りや、こうして劇場に集まることは、昔は協同の本能を呼び覚ますための大切な習慣でした。人類史として振り返るなら、現代社会はそうした心の協同を見失っているため、目に見えないところで事態を深刻化させています。災害時に当座の救済が必要なことは当たり前ですが、それ以前の日常生活における目に見えない心の協同が衰退していることは知っておく必要があると思います。あらためて、協同の心呼び覚ます祭りや、劇場文化のあり方を見直して欲しいと思います。

ワーカーズにはそうした協同の心呼び覚ます雰囲気があります。目に見える効果だけでなく、協同の心呼び覚ます劇場文化を大切にしてください。今回の「被災地に起つ」の上映会も大切な劇場の試みです。映画を観て、ここには「顔の見える文化」があると思いました。

◆労働者協同組合とは、地域が必要とする事業を働く人自身が資本を持ち寄って起業し、民主的に運営する組織です。現在、国会で新しい協同組合法として認可する準備が進んでいます。



◆長野市で『出航』上映会
『出航』は現代のテーマだ



網島信一先生 網島浩子さん

9月21日(土)午後1時半から、長野市のノルテ長野(吉田公民館)3F大教室で『出航』の上映会が開かれました。企画したのは昔から長野市で公演の実行委員を勤め、今も現代座会員の網島信一さんです。

地域の人々と共に『出航』の上映を通して、「何故あの時代に『出航』をつくったのか」を木村快に語ってもらい、時代の転換となった1970年代から見えてくる現代、そして未来について考えたいという企画です。

彼は地域で色々な活動をしていて、「吉田9条の会」の会長でもあります。そこで役員会で話して「吉田9条の会」の学習企画としてやることにしました。仲間に呼びかけるだけでなく色々な方に参加してもらおうと「週刊長野」に『統一劇場という劇団を覚えていませんか?』というお知らせを載せてもらいました。

ところが網島さんは以前から悪かった腰の手術が必要になり、突然、入院してしまったのです。それでも、病院で電話を受けてくださりながら、元実行委員で現代座会員の田尻今朝夫さんに連絡、田尻さんが準備を進めてくださいました。そして当日は、奥さんの浩子さんが孤軍奮闘で準備を進めてくださいました。

受付をはじめると、名古屋市や岐阜県、茨城県から来てくれた人もいます。聞いてみると40年前信州大学で毎年統一劇場の実行委員をやっていたという人



◆写真は田尻今朝夫さん撮影で、本人は写っていません。

達でした。長野市に住んでいる人がお知らせを見て、学生時代の仲間に連絡したのです。連休でもあり各地から集まって来てくれたのです。信州大学の実行委員会の担当だった劇団員の今村徹子も松本市から駆けつけ、久しぶりの再会になりました。信大以外にも「週刊長野」を見て参加してくれた統一劇場創立の頃の実行委員だった滝沢さんご夫婦も来てくださいました。

9条の会の伝田豊美さんの司会で始まり、木村快の挨拶、字幕入り『出航』の上映。終わってからみんなで話し合いました。それぞれから自分の生活を振り返る感想などが話され、古い支持者の方向士も新しい絆が生まれる感動的な場になりました。最後まで残っておられた人達で写真撮影をして終わりました。

信大グループはさらに二次会を開き、それぞれ定年を迎え、新しい生き方を模索している時なので、『出航』はこれからのテーマだね」と乾杯していました。

主催者のみなさんは入院中の網島さんも、代わりを支えてくださった奥さんの浩子さんや田尻さんも大変だったと思います。思いがけない出会いの場を創って頂きました。ありがとうございました。

(木下美智子)

現代座会館 8月〜10月 活動日誌

- 7月31日 「現代座レポート79号」発送作業
- 8月25日 現代座創造グループ会議
- 9月10日 「川崎平右衛門顕彰会・研究会」会議
- 9月25日 現代座創造グループ会議
- 10月1日 池田春寿さん来訪DVD「約束の水」上映
- 10月20日 現代座創造グループ会議
- 10月26日 緑町第2町会役員会
- 10月30日 木村快教育文化経営学院の学生と打ち合わせ
- 毎月第3木曜日「緑町ふれあいサロン」

【現代座ホール】

- 8月1〜5日 ふるきやら「瓶が森の河童」稽古
- 8月8〜12日 劇団希望舞台「釈迦内板唄」稽古
- 8月18〜21日 芝居屋楽屋「鬼」公演
- 8月24・25日 劇団「トマト座」稽古
- 8月26〜30日 ふるきやら「瓶が森の河童」稽古
- 10月7〜9日 JAT稽古
- 10月15〜17日 スタジオ・ポラーノ
- 10月27〜29日 「注文の多い料理店」稽古

【三階小ホール】

- 8月22〜25日 バケツまみれ「peace of cake」公演
- 9月29・30日 スタジオ・ポラーノ
- 10月13日 「どんぐりと山猫」稽古
- 10月13日 劇団希望舞台「釈迦内板唄」稽古
- 隔水曜日 朗読教室
- 毎火曜・金曜日 ヨガ教室

【定期使用 一階サロン】

- 毎金曜・日曜日 教育文化経営学院(学生支援)
- 毎水曜日 毎年パソコンサークル
- 隔木曜日 2nd 熟年講座

心をつなぐ バラエティ劇場 第3弾

2020年2月7日から9日まで現代座3F小ホールで久しぶりの「バラエティ劇場」を行います。

◆第1部◆ BONBON組の落語と芝居

BONBON組による落語と芝居です。BONBON組は現代座に出演している矢川千尋さんが参加している創造グループで、何度も3F小ホールで公演しています。



鹿目久憲さん演ずる落語「粗忽長屋」は、おつちよこちよいの兄貴が行き倒れを見て弟分と勘違いし、本人確認するため本人を連れてくるという与太話です。

そして落語を元にした芝居「ろくろ首」を清水雅子さんと矢川千尋さんが演じます。お嫁さんがほしい松吉の相談にのる叔父さんが紹介してくれたのは、なんと「ろくろ首!」というお話。

◆第2部◆ 失われた協同の記憶『群来(くき)』



現代座の舞台『出航』のクワイマックスで、漁師達が「もう一度海に行きたい」と心をひとつにしていく場面で歌われているのが「沖揚げ音頭」です。かつて北海道では春のある時期、突然ニシンの大群が押し寄せ、沿岸一帯をぎっしりと埋めつくします。この光景を「群来(くき)」と言いました。

僅か1週間ばかりの間に3ヶ月分の水揚げがあり、手当も大変高かったため、各地からやってきた出稼ぎ漁師たちが、20〜30人で1グループを組み、複雑な作業を不眠不休で働きました。それが可能だったのは舟漕ぎ唄、

心をつなぐバラエティ劇場

第1部 BONBON組による 落語と芝居

第2部 失われた協同の記憶 群来(くき) 歌と語りでつづるニシン漁とソーラン節

日時:2020年2月7日(金)
2月8日(土)
2月9日(日)
開演:14:00(開場13:30)
場所:現代座会館3階小ホール
参加費:2500円 小中高1000円
(コーヒー or 紅茶付き)
定員:各回40名(予約優先)
予約:TEL 090-7246-2004(今村)
FAX 042-381-6987

網起こし音頭、沖揚げ音頭(ソーラン節)、子叩き音頭という連続した作業を、各行程の音頭取りが状況を見ながら、歌詞やテンポを変えて第一声を発し、全員がそれに呼吸を合わせて唱和し、一心同体となれたからです。これは日本文化史上、大変珍しい労働歌で、まさに歌によって協同を作り出していたのです。残念ながら、こうした協同の労働歌は忘れられてしまいました。

現代座の今村純二は1967年の北海道公演の時、日高地方の三石町の漁師さん達が実際に歌ってくれた歌を聞き、とても強い印象を受けました。それが15年後の1981年度作品『出航』の舞台につながっていききました。

今回は今村純二が北海道の思い出とニシン漁について語ります。そして現代座メンバーも加わって沖揚げ音頭、ソーラン節を歌います。会場の皆さんといっしょにニシン漁を追体験してみようという試みです。みんなで呼吸を合わせ、心をひとつにしていく「歌による協同」を体験してみましょ。

NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

★年会費(現代座レポート購読料を含む)

一般会員 3,000円
協賛会員 10,000円(1口以上)
郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座